

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	事業計画期間	昭和48年度～平成27年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	(若桜・江府線 用瀬・三朝区間) (鳥取県)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長78.0kmのうち 用瀬・三朝区間 の延長25.7km、幅員5.0m、7.0m		
費用対効果分析 の算定基礎となっ た要因の変化	用瀬・三朝区間について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 34,707百万円 総費用(C) 27,085百万円 分析結果(B/C) 1.28		
森林・林業情 勢、農山漁村の状 況その他の社会経 済情勢の変化	関係町村の森林の人工林率は59%であり、80%が民有林である。また、受益地の人工林率は70%であり、73%が民有林である。 受益地では、人工造林、下刈及び間伐の施業量、素材生産量が増加する見込みである。 本区間周辺は古くからの林業地域である智頭林業地帯である。 本区間周辺のうち千代川流域で生産された素材は主として木材加工市場や木材加工施設のある智頭町に持ち込まれている。 本区間により三朝町から智頭町までのアクセスが改善され、鳥取県中部から智頭町への素材の輸送ルートとなることが期待される。 本区間により、用瀬町、河原町などから三朝町、倉吉市への距離が短縮され、地域の広域移動に利用されることが期待される。 鳥取県が実施している調査において本区間の受益地で稀少猛禽類の飛翔が確認されたことから、本年度より緑資源機構でもモニタリング調査を実施することとしている。 濁水を防止するため、法面の切取工事後は速やかに緑化工を実施している。 舗装材への再生アスファルトの使用など、資源の有効活用を図っている。		
事業の進捗状況	進捗率58% うち用瀬・三朝区間 進捗率99% 周囲の景観との調和を図るため、法枠工の枠内を緑化している。		
関連事業の整備 状況	国道等を補完し、森林地域における交通ネットワークの形成に寄与することが期待される。		
地元(受益者、 地方公共団体等) の意向	林業生産活動、森林レクリエーション活動及び地域間の交流に大いに役立つほか、観光業への利用者の増加による地域経済への貢献や行き止まりの集落の災害時等の迂回路としての機能が期待されるとして鳥取県及び関係町村等は早期完成を要望している。		
事業コスト削減 等の可能性	施工能力の高い32トンブルドーザなどの利用の積算への反映、構造物への二次製品の採用や施工単価の安い側溝の採用により、コスト削減と工期の短縮を図っている。 鋼橋桁に塗装が不要な耐候性鋼を使用することにより、メンテナンスコストの削減を図っている。		
代替案の実現可 能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。 なお、引き続き稀少猛禽類のモニタリング調査に基づき、環境保全に配慮して事業を実施することが適当と考える。		

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	事業計画期間	昭和48年度～平成27年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	若桜・江府線 (三朝区間) (鳥取県)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長78.0kmのうち 三朝区間の延長16.9km、幅員7.0m		
費用対効果分析 の算定基礎となっ た要因の変化	三朝区間について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 8,638百万円 総費用(C) 5,996百万円 分析結果(B/C) 1.44		
森林・林業情 勢、農山漁村の状 況その他の社会経 済情勢の変化	三朝町の森林の人工林率は60%であり、79%が民有林である。また、受益地は人工林率が70%であり、65%が民有林である。 受益地では、間伐の施業量及び素材生産量が増加する見込みである。 素材は主として倉吉市にある木材市場に持ち込まれているほか三朝町中心部にある森林組合の小径木加工場に持ち込まれている。 本区間は岡山方面に延びる国道197号線から森林の総合利用施設のある小鹿溪へのアクセス道の一つとしての利用が期待される。 三朝町内の公道は主として南北に整備されており集落を東西に結ぶ公道は未整備であることから、本区間は集落間の移動に利用されることが期待される。 緑資源公団(現緑資源機構)が実施した調査の結果、稀少猛禽類の飛翔が確認されたことから、緑資源機構が毎年モニタリング調査を実施し、工事実施時期等につき適切な措置を講じている。 濁水を防止するため、法面の切取工事後は速やかに緑化工を実施している。 舗装材への再生アスファルトの使用など、資源の有効利用を図っている。		
事業の進捗状況	進捗率58% うち三朝区間 進捗率60% 周囲の景観との調和を図るため、巨石積み工や丸太伏工を採用している。		
関連事業の整備 状況	整備後は公道等を補完し、周辺森林地帯の新たな交通ネットワークの形成に寄与することが期待される。		
地元(受益者、 地方公共団体等) の意向	林業生産活動、森林レクリエーション活動に大いに役立つほか、三朝町の中部と西部が結ばれ、地域間交流がはかれるとともに、岡山方面へのアクセスも改善されるとして、鳥取県及び三朝町等は早期完成を要望している。		
事業コスト削減 等の可能性	施工能力の高い32トンブルドーザなどの利用の積算への反映、構造物への二次製品の採用や施工単価の安い側溝の採用により、コスト削減と工期の短縮を図っている。 鋼橋桁に塗装が不要な耐候性鋼を使用することにより、メンテナンスコストの削減を図っている。		
代替案の実現可 能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。 なお、引き続き稀少猛禽類のモニタリング調査に基づき、環境保全に配慮して事業を実施することが適当と考える。		

期 中 の 評 価 個 表

整理番号 53 - 3

評価結果及び実施方針	(用瀬・三朝区間) ・必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 森林・林業への寄与のほか、鳥取県中央部から林業地帯であり、木材市場の立地する智頭町へのアクセスが改善されることが期待されることから、事業の有効性は認められる。 (三朝区間) ・必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 森林・林業への寄与のほか、三朝町の集落間の連絡道としても機能することが期待されることから、事業の有効性は認められる。 事業の実施方針： 着工中区間の用瀬・三朝区間及び三朝区間については継続とし、引き続き稀少猛禽類のモニタリング調査に基づき環境保全に配慮して事業を実施する。
-------------------	--